1953年6月16日　第三種郵便物認可

2025年5月26日（月）3186号　隔週月曜日発行

民主青年新聞

DEMOCRATIC YOUTH NEWSPAPER

みどころ
戦後80年　日本の加害責任とどう向き合うか　6、7面
点字「赤旗」、創刊から50年　3面
日本学術会議解体法案の何が問題か　10、11面

▶ホームページ www.dylj.or.jp　▶Eメール minsin@dylj.or.jp

『資本論』ってどんな本？ どう学び、どう生かす？

▶学生オンラインゼミで質問に答える日本共産党の志位議長（10日、日本共産党本部）

5月10日、日本民主青年同盟主催で、学生オンラインゼミ第4弾「いま『資本論』がおもしろい―マルクスとともに現代と未来を科学する」が開催されました。本会場と共に全国で視聴会場を作り、3500人以上が参加しました。今回のゼミは、4月14日に民青同盟中央常任委員会と日本共産党の志位和夫議長とで行ったミニ学習会の内容を踏まえて作った質問に、志位さんが答える形で進めました。司会は民青同盟の西川龍平委員長と中山歩美副委員長です。

（齊藤崇記者）

学生オンラインゼミ第4弾

海外でも注目集まる

質問の全体は8章で構成されています。

第1章では、『資本論』とはどのような本なのかを深めました。

冒頭で志位さんは、ヨーロッパやアメリカで『資本論』への注目が広がっていることを話しました。昨年8月に志位さんがフランスを訪問した際、「自由に処分できる時間こそ真の富」というマルクスの『資本論草稿』の言葉について話しました。フランスの仲間たちからは、『自由な時間こそ真の富』というのはその通りです。私たちも『資本論草稿』の学習会をやっています」との発言が返ってきたといいます。

アメリカでは主要な大学で『資本論』の講座が広がっており、昨年9月、約50年ぶりに『資本論』第一部の新しい英語版が刊行されました。これをきっかけに、バーニー・サンダース上院議員を支持する人々の間で、『資本論』の読書会を組織する運動が広がっています。

志位さんは『資本論』は、マルクスの『畢生の大著』、生涯をかけた大作です」と話し、その特徴を3つの角度から紹介しました。第一は、資本主義を生成、発展、没落で捉えた書、第二は、資本主義を乗り越えた未来社会――社会主義・共産主義社会が、最も成熟した形で、豊かに語られた書、第三は、労働者と人民に社会を変えるたたかいを呼びかけた書であると話しました。マルクスは『資本論』の準備・執筆と並行して、労働者運動の最初の国際組織、国際労働者協会・インタナショナルの活動に身を投じていたことを紹介し、「労働者のたたかいに飛び込む中でつくられたからこそ、今でも民衆のたたかいの生きた指針として力を発揮しています」と話しました。

志位さんは、今回のゼミでは『資本論』の第一部を中心に話すとし、「第一部は『資本論』全三部の土台をなすものであり、第一部だけで『一つの独立の著作』をなしている」と『資本論』第一部を学ぶ意義を語りました。

『資本論』に込めたメッセージ

第2章では、志位さんは現代日本の労働時間は搾取される時間の方が長いとした上で、労働者が搾取によって「カネ」だけでなく「時間」が奪われていることを指摘。第3章では、自由な時間を拡大する意義について強調しました。第4章から第6章にかけては、生産力の拡大は格差と貧困の拡大などさまざまな害悪をもたらす一方で、未来社会の物質的土台をつくりだすこと、社会変革はたたかってこそ現実のものとなることを語りました。第7章では未来社会と人間の自由について、「利潤第一主義」から自由になり、「戦争からの自由」も実現すること、「人間の自由で全面的な発展」にこそ未来社会の輝きがあること、発達した資本主義国が社会主義・共産主義に進む場合は、「人間の自由」にも計り知れない豊かな可能性があることを押し出しました。

最後に第8章で、『資本論』をどう学んでいけばよいかが語られました。志位さんは、マルクスが『資本論』フランス語版（1871～75年）に寄せた「フランス語版への助言とあとがき」を紹介。マルクス自身が、『資本論』について、特に初めのいくつかの章を読むことが「かなり困難」だと率直に述べている、と説明しました。そのうえで志位さんは、「マルクスが『真理を切望する読者』への『心がまえ』として次の言葉を贈っています」と述べ、「学問に平坦な大道はありません。そして、学問の険しい小道をよじ登る苦労を恐れない人々だけが、その輝く頂上にたどり着く幸運に恵まれるのです」という言葉を紹介しました。

最後の「『資本論』を人生にどう生かすか」という質問について、志位さんはマルクスが『資本論』の「序言［初版への］」で述べた「私は、新たなものを学ぼうとし、したがってまた自分自身で考えようとする読者を想定している」との言葉を紹介。「新しいものを学ぼう。自分の頭で考えよう。そしてこの社会の不合理がどうして起こるのか、どうしたら解決できるのかをつかんだら、連帯してたたかうことでこの世界を変えよう。これがマルクスが『資本論』に込めたメッセージだと思います」と話し、「ぜひこのメッセージを、若いみなさんが、自らの人生の指針として生かして、素晴らしい人生を歩んでほしいです」と締めくくりました。

（2面につづく）

質問の章立て

1、『資本論』とはどのような本なのか？
2、どうやって搾取が行われているのか？
3、労働時間を短くするたたかい（「自由な時間」を拡大するたたかい）の意味は？
4、生産力の発展が労働者にもたらすものは何か？
5、貧困と格差拡大のメカニズムは？
6、社会の変革はどうやっておこるのか？
7、社会主義・共産主義で人間の自由はどうなるか？
8、『資本論』をどう学び、人生にどう生かしていくか

←ゼミのアーカイブ動画は民青同盟のYouTubeチャンネルから視聴できます

発行所
日本民主青年同盟中央委員会
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-20-2
電話(03)5772-5701　FAX(03)-5772-5702

日本民主青年同盟中央機関紙

定価　月680円　〒130円　1部340円
郵便振替00180-4-106690